

# 令和3年度 学校関係者評価書

日向市立財光寺小学校

☆自己評価（5段階 5：目標を十分に達成 4：目標達成に近づきつつある 3：目標に向けた取組が展開されている  
2：目標達成、取組が不十分 1：早急な取組の改善が必要）

観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
一人一人を大切に する学校  学校 自己評価 (3.8)  学校運営 協議会委 員評価 (4.5)	楽しい学校  質問～児童① 保護者①	個に応じて学習指導や生徒指導を工夫しながら取り組んでいる。特に、不登校傾向の児童には、担任だけでなく、管理職や養護教諭、専科等職員が積極的に関わりながら、細やかな対応をしてきた。その結果が、99%の肯定的な意見につながっていると考えられる。しかし、学校でできる範囲も決まっているので、地域や関係機関と連携して取り組む必要がある。 コロナ禍ではあったが、行事等単に中止ではなく何が出来るかどう工夫すればよいか全職員で考え、昨年度より前進することができた。 児童のがんばりを認め、誉めることに関しては保護者や児童の実態が伴っていない部分もあることから、児童への称賛については、意識的に機会をとらえ継続していき、保護者にも伝えていきたい。  【対応策】 ・一人一人の児童をしっかりと見つめ、教師一人一人の「気づく目」が必要である。児童を意図的に称賛する機会を増やすとともに、授業の様子や児童の変容について、通信やホームページでの積極的な発信と報告の仕方の工夫を行っていく。 ・気になる事案に関しては、職員全体で共通理解を図りながら、組織的に対応する。さらに、スクールソーシャルワーカーなどの関係機関等や地域との一層の連携を図っていく。 ・今年度導入された「タブレット」を効果的に活用し、授業の工夫を行うとともに、児童ががんばっている時やできた時の姿をタイミングよく称賛する。 ・児童が主体的に活動できるように、様々な行事において各学年や委員会活動を通して児童自身に考えさせ、実行できる指導を全職員で年間を通して継続していく。	○不登校に対する工夫した取組により、学校が楽しいと感じる児童が、99%の凄い結果に驚いている。  ○「学校が楽しい」の項目で保護者99%、児童94%は出そうと思って出せる数値ではないので、先生方一人一人の意識と頑張りの表れだと思う。  ○財光寺小学校は一人一人を大切にしていると思う。  ○昨年度からのコロナ禍の大変な状況の中、全スタッフの「一人一人を大切にできる学校」に対する取組に感謝する。  ○朝の登校時にはほとんどの児童は元気なく暗いが、下校時に見るとほとんど明るい。これは、学校が楽しく友達や先生達と素晴らしい人間関係ができていた表れだと思う。  ○不登校傾向の児童の問題は繊細だが、地域の民生児童委員が何かしらのサポートができる体制を作っていけるとよい。
	児童のやる気を引き出す活動と児童の活躍に対する賞賛  質問～児童② ～保護者②		

学校経営スローガンとの関連

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営方針（１）との関連	学力の向上	わかる授業 指導の工夫  質問～児童③ ～保護者③	<p>CRTや全国学力調査・県学力調査の分析を全職員で行い、本校児童の課題や学年毎の系統性を持った指導方法の工夫改善に取り組んでいる。また、算数における「花まるタイム」の時間を設定し、花まる先生とともに、管理職・専科担当も入り、オール財光寺で学力向上に努めている。また、GIGAスクール構想によるタブレットが各学級に設置され、デジタル教科書や実物投影機等のICT（情報機器）とともに授業で使われている。このICTを効果的に活用し、「財小スタイル」の授業の在り方について日々研鑽を深めている。</p> <p>そして、家庭学習の充実に向けて、個人面談や懇談会・通信等の機会を通して、課題の与え方や内容の工夫、家での関わり方等も家庭と連携を図って取り組んでいる。さらに、不登校児童に対する個別の学習場所を確保し、個に応じた指導も継続して行ってきた。</p> <p>しかしながら、「わかりやすい」と肯定的な回答が多かった児童とは対照的に、学習内容が「わかっていない」と感じている保護者が多いことが本集計結果からうかがえる。また、家庭学習の関わりが少ない家庭もある。</p> <p>【対応策】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットの一人一端末を活用した授業づくり・ドリル学習等に積極的に取り組む。また、学力調査の分析を生かした指導方法の工夫や練習問題としての活用を高める。</li> <li>・午前中5時間授業の校時程を設定し、授業のための教材研究や資料準備の時間を確保する。</li> <li>・教師同士の悩みを相談するしゃべろう会やOJT（教師相互の学び合い）、相互授業参観等をとおして、教職員の一層の授業力、指導技術の向上に努める。</li> <li>・花まる先生や花まるサポーター・人財バンク等の様々な地域の方々との協力を得ながら、授業支援や個別指導の充実を図っていく。</li> <li>・「家庭学習の在り方」について保護者と個人面談や日々の細やかなやり取りを通してその子に応じた課題の与え方を検討したり、その大切さや取組の工夫を伝えたりして、理解と協力を得る。</li> </ul>	<p>○「オール財光寺」で取り組んでいることは素晴らしいことと思うが、児童の学力に個人差が感じられる。</p> <p>○参観日等で授業に出席して、分かりやすく児童の興味を持たせるような取組がされていて、先生方に感謝している。</p> <p>○学力向上のために関係者全ての努力が伺える。新たにタブレット授業をスタートするに当たって、各家庭で子どもと話し合うことにより、抵抗なく取り組める環境づくりが学力向上へとつながっていくと思う。保護者は、子どもに対して将来に向かっての道しるべを示す時間を設けることが大切と考える。</p> <p>○次年度より午前中5時間授業に移行するのを踏まえ、2校時連続等、時と場合によって自由に授業時間を使い分けて「分かっていない」→「分かった」→「できる」と繋がるような授業を期待したい。</p> <p>○次年度よりの午前中5時間授業に賛成だが、読み聞かせ等の朝の時間はカットせず、時間を見いだしてほしい。児童の集中力や朝食のことが気にかかる。</p> <p>○CRTや全国学力調査・県学力調査の結果を保護者と共有して、家庭と学校が手を取り合っ子ども達の力を伸ばして欲しい。</p> <p>○花まるタイムについては、コロナの影響でできない部分もあったが、子ども達が喜んでくれるので、次年度は回数を多くしてサポートしたい。2年生から1年生へと広げていきたい。</p> <p>○タブレットの活用については、先生方も忙しい中で様々な研究で対応してくれていると思う。私自身も、タブレットを活用して仕事や趣味に生かすことが多く、もっと便利にもっと効率的に、そして先生方の負担軽減につながるとうよい。</p>
	学校自己評価 (3.7)	家庭学習の充実		
学校運営協議会委員評価 (4.1)			<p>○次年度より午前中5時間授業に移行するのを踏まえ、2校時連続等、時と場合によって自由に授業時間を使い分けて「分かっていない」→「分かった」→「できる」と繋がるような授業を期待したい。</p>	

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営方針（２）との関連	豊かな心の育成	地域人材の活用と体験活動の重視  質問～児童⑤ ～保護者⑤	コロナ禍ではあったが、コミュニティ・スクールを通じた地域人材を活用したり、体験活動を実施したりすることができた。読書については、肯定的な意見が保護者・児童ともに少なかった。本に触れる機会を増やしたり、家読のさせ方を工夫したりして、読書に対する児童・保護者の意識の向上を図ることが必要である。	○コミュニティ・スクールの取組は、コロナの少ないときに工夫して活動を開始したので、かなり良い活動ができた。次年度は、読み聞かせの活動を活発にしてほしい。
	学校自己評価（3.5）	「家読」（うちどく～家庭での読書）など読書指導の推進  質問～児童⑥ ～保護者⑥	いじめの防止については、毎月の教育相談やいじめアンケート等による日常の実態把握から児童理解に努め、課題があればチームとして取り組むことができた。しかし、保護者は不安に感じている状況が本集計結果からうかがえる。	○「家読」については、例年アンケート結果でも低い評価がされており、親子そろっての家庭での取組が大切だと思う。次年度から計画されている毎月15日の「家読の日」が大変素晴らしいと思う。デジタルの時代に本のよさを再認識し、豊かな心を育ててほしい。
	学校運営協議会委員評価（3.9）	児童の人間関係づくりといじめの未然防止  質問～児童⑦ ～保護者⑦	コロナ禍もあろうが、学校外でのあいさつ・会釈共にもう少しである。 【対応策】 ・体験活動に関しては、可能な限り工夫して行い、継続して質の確保、向上を目指す。 ・毎月「家読の日」を設定し、「家読カード」を活用しながら、家庭での読書への取組方法を見直し改善を図る。また、家庭で読んだ本や保護者へのおすすめの本の紹介、読み聞かせグループ「どんぐりの会」や市立図書館との連携など、読書推進のための啓発活動を工夫する。	○子どものいじめの原因は、会話のない家庭をはじめ親に原因があり、家庭でストレスが溜まり、いじめに発展するケースも多い。保護者が子どもに対して向き合う心が必要。保護者の方々は、学校任せの教育でなく、身近な出来事から子どもと向き合い、家庭での会話を進めてほしい。
		あいさつ等の望ましい態度の育成  質問～児童⑧ ～保護者⑧	・毎月のいじめアンケートをもとに日々気になる児童の観察を行うとともに、いじめを見抜く教師の目、絶対に許さないという学校全体の雰囲気醸成されるような研修、対策会議を継続的に実施していく。 ・毎月の全校あいさつ運動「財道」や運営委員会を中心とした児童会活動を通して、全職員、保護者、地域を巻き込んでの「あいさつ運動」を推進していく。	○見守り隊の方は多数のボランティアの参加で充実しているが、あいさつ運動をもう少し力を入れると良いと思う。まだ恥ずかしさかあいさつがもう一歩である。
		規範意識の向上  質問～児童⑨ ～保護者⑨	・問題行動に関しては早期解決に心がけるとともに、事例によっては通信や安心安全メール等を通して情報を発信し、児童・保護者への啓発を図っていく。	○朝登校時のあいさつは、自らする子どもとこちらがすれば帰ってくる子どもとが半分くらいである。班長があいさつする班は、自らあいさつする子が多い。  ○安心安全メールは、コロナ禍もありたくさん届いた。細やかな連絡があり、大変分かりやすかった。



	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営方針（3）との関連	体力の向上	体力づくりの推進 質問～児童⑩ ～保護者⑩	体力づくりについては、コロナ禍の影響で、体力テストの結果が全体的に落ち込んでいたため、「体力向上プラン」を活用し、5分間走や遊具を用いたサーキットトレーニング等を取り入れ、体力向上に努めている。また、外遊びについては学校をあげて推奨しており、昼休みにはたくさんの児童が外遊びを楽しんでいた。	○コロナ禍の中で何ができるのか、先生方が検討した結果、体力向上プランを活用し、体力向上につながり、ストレス解消にもつながったと思う。
	学校自己評価（3.4）	健康管理と基本的な生活習慣の定着 質問～児童⑪ ～保護者⑪	マスクの着用、消毒、室内の換気等、新型コロナウイルス感染症への対応を年間を通して積極的に行った。また、基本的な生活習慣に関しては、保護者の協力もあり、ある程度徹底することができたが、保護者に十分に伝わっていないことが本集計結果からうかがえる。	○コロナ禍で外遊びや体力が落ちないかと心配していたが、近所の方から子ども達の楽しそうな声が聞こえて幸福だと思ったと話を聞いた。感染対策をして活動するのはとてもよいと思う。
	学校運営協議会委員評価（3.7）	食に関する指導の充実 質問～保護者⑫	食に関する指導については、市内の栄養教諭との連携を図った食育授業を各学年で実施することができた。しかし、残食が増えている傾向が見られる。 食物アレルギーの対応については、昨年度の結果と比べて、保護者へ浸透してきたことが本集計結果からうかがえる。	○昼休みの外遊びは、特に先生達と一緒に遊べるのが楽しらしく、娘もたくさん遊んでもらった。財光寺小学校らしさとして、ずっと続けると嬉しいと思う。
		メディア・コントロール 質問～児童⑫ ～保護者⑬	メディアの使い方について、財中校区の三校合同の取り組みにより、「家庭でルールを決め、約束を守らせている」ことに関して肯定的な意見が昨年より増えているので、取組を継続し各家庭への啓発を行いたい。 【対応策】 ・コロナ禍においても、体力づくりに向けて、サーキットトレーニングや体育振興指導員等の外部講師の連携等工夫した取組を実施していく。 ・外部講師と連携しての食育授業を継続するとともに、食物アレルギー対応と併せて、その取組を積極的に発信していく。残食に関して、生活リズムの改善や体力作りと関連させて取り組んでいく。 ・メディアの利用について、保護者への啓発を含めた携帯スマホ教室等の実施を参観日で計画する。また、メディア・コントロールについては、中学校区で次年度も継続的に保護者への啓発を図っていく。 ・PTAと連携し、PTA総会や新聞等を活用し、「早寝・早起き・朝ご飯」の生活リズムの定着やメディア教育を推進していく。	○PTAだけでなく、地域も一緒に体力づくりの取組ができるとう良い。 ○毎日の歯磨き・朝食での評価は本来ならば「95%」以上「評価5」であってほしい。「家読」同様に家庭での保護者の役割・責任を自覚してもらいたい。 ○午前中5時間授業を踏まえ、PTAと連携し「早寝・早起き・朝ご飯」を推進していくことは素晴らしいことだと思う。保護者の意識改革が重要。 ○食のアレルギーについては、保護者・医療関係者・外部の連携等絶対に欠かせない命の問題と思う。また、保護者に対しては、啓発を促し対応を図る。食物アレルギーの子どもをもつ保護者は、学校と連携して見守ってほしいと思う。 ○メディアは取り除くのではなく、家庭でのルールを大切にしながら上手に使う必要がある。中学校区での取組は、次年度もぜひ続けてほしい。

	観点	評価項目	学校による結果分析と対応策	コメント
学校経営方針（４）との関連	地域とともにある学校	保護者のPTAや地域での行事・活動への参加 質問～保護者⑭	コミュニティ・スクールの取組により、財光寺小学校「人財バンク」が整備され、授業や環境美化等でたくさんの協力をいただき、地域とともにある学校づくりを推進することができた。また、本校の取組を「九州・沖縄フォーラム」の発表を通して、たくさんの方に伝えることができた。 しかし、本年度もコロナ禍の影響により、予定していた行事等が中止になり、学校・地域・家庭の連携が難しくなった。PTA有志による平日の奉仕作業には、昨年に続いて多くの保護者が参加してくださったが、奉仕作業を含め次年度のPTA活動の在り方について、今後運営委員会を中心として検討していく必要がある。学校の取組やお知らせについては、文書に限らず、安心安全メールやホームページを通して、積極的に発信することができた。	○学校・PTA・地域が一体となり、子ども達に夢を与えるような人財バンクの幅を広げていけば、子ども達も自ら考え成長につながると思う。また、人の痛みが分かるような素晴らしい子どもに成長すると思う。  ○財小は、市内・県内でも数少ない活動をやっている。これからも、地域と学校、保護者と連携を取って行って推進してほしい。
	学校自己評価（3.9）	児童の地域での行事・活動への参加 質問～児童⑬ ～保護者⑮	【対応策】 ・地域との連携を図った授業を充実させるために、地域コーディネーターと協力して更に「人財バンク」を充実させていく。 ・PTA総会他の保護者が集まる場面で、学校から発信すべきことや小中一貫教育、コミュニティ・スクールの意義、地域行事、PTA行事に参加することのよさやメリット等についてより積極的に発信していく。 ・本学校評価で出された保護者の意見、要望等について、PTA総会等できちんと学校からの回答を行い、改善や理解に努めるなどして信頼関係の更なる構築につなげる。 ・引き続き学校行事やPTA行事、取組の精選と計画の改善を行いながら、保護者がより参加しやすいように工夫する。 ・学校ホームページや安心安全メールを活用しながら、学校からの情報発信の一層のICT化を図る。とくに、安心安全メールについては、効果的な活用を模索していく。	○着実に地域を巻き込んだ授業を行っており、フォーラムやその他の場所でも自信を持って発信できる取組だと思う。  ○本校で行われた「しゃべり場」は本当に良い結果を出した。コロナ禍ではあったが、先生方の素晴らしいアイデアとコーディネーターの河野さんのおかげで、地域と学校が結ばれて、本当に良かった。次年度は、更に前進し様々な活動を広げてほしい。
	学校運営協議会委員評価（4.2）	学校の情報発信 質問～保護者⑯		○コロナ禍で地域の行事が無くなっているの、児童の参加やふれあいの場が減ったことが残念である。  ○PTA活動については、なかなか話し合う場がなく、改善が難しいところではあるが、学校側の頑張りが良い循環を生み出して、少しずつ変わっていくのではないかと期待している。  ○PTA活動に関する保護者コメントや評価も厳しい結果が見られるが、学校側の取組には一定の評価が見られ、良かったと思う。  ○PTA活動が昨今問われているのは、個人個人の価値観の相違だと感じている。運営協議会・しゃべり場・PTA総会等で前向きな解決を願っている。











